

市内遺跡試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報16

2023
中津市教育委員会

市内遺跡試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報16

中津市文化財調査報告
第116集

2023
中津市教育委員会

市内遺跡試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報16

2023

中津市教育委員会

例 言

1. 本書は大分県中津市教育委員会が2022年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。
2. 調査は令和4年度国宝重要文化財等保存・活用事業費および令和4年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

3. 調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	粟田 英代 (中津市教育委員会教育長)		
調査事務	黒永 俊弘 (中津市教育委員会教育次長)		
	瀬戸口千佳 (同	社会教育課長)
調査、調査事務	高崎 章子 (同	歴史博物館長)
	花崎 徹 (同	副館長兼博物館・文化財係主幹)
	浦井 直幸 (同	博物館・文化財係員)
	丸山 利枝 (同	博物館・文化財係員)
	三谷 紘平 (同	博物館・文化財係員)
	衛藤 美紀 (同	博物館・文化財係員)
	曾我 俊裕 (同	博物館・文化財係員)
	小柳 和宏 (同	博物館・文化財係会計年度任用職員)
調査指導	佐藤 信 (大分県教育庁文化課主査)		

4. 市内遺跡試掘確認調査は丸山・小柳・浦井が行った。
5. 遺構の実測、写真撮影などは調査担当者が行った。
6. 本書の執筆は第1章、第2章1、(2) ②、(3)、(4)を浦井が、第2章(1)、(2) ①を小柳が、第2章(2) ③、(5)、(6)、第3章を丸山が行った。
7. 本書の編集は、浦井が行った。

目 次

第1章	遺跡の位置と環境	1
	1. 地理的環境	1
	2. 歴史的環境	1
第2章	市内遺跡試掘確認調査	
	1. 今年度の調査概要	3
	(1) 永添中園遺跡	4
	(2) 沖代地区糸里跡	5
	(3) 中津城跡	8
	(4) 原口遺跡	9
	(5) 中津城下町遺跡	10
	(6) 是則地区(周知遺跡外)	10
第3章	史跡長者屋敷官衙遺跡周辺確認調査(八並城跡) ...	11
	報告書抄録	

図 版 目 次

第1図	中津市内主要遺跡分布図	2
第2図	試掘確認調査位置図	3
第3図	永添中園遺跡調査区位置図	4
第4図	沖代地区条里跡①調査区位置図	5
第5図	沖代地区条里跡②調査区位置図	6
第6図	沖代地区条里跡③調査区位置図	7
第7図	沖代地区条里跡③トレンチ配置図	7
第8図	中津城跡調査区位置図	8
第9図	原口遺跡調査区位置図	9
第10図	原口遺跡遺構分布図	9
第11図	中津城下町遺跡調査区位置図	10
第12図	是則地区調査区位置図	10
第13図	長者屋敷官衙遺跡周辺確認調査区位置図	14
第14図	長者屋敷官衙遺跡令和4年度調査区	15

表 目 次

表1	長者屋敷官衙遺跡調査一覧	11
----	--------------	----

写真目次

写真1	永添中園遺跡調査前状況	4
写真2	永添中園遺跡A棟部分トレンチ	4
写真3	永添中園遺跡B棟部分トレンチ	4
写真4	沖代地区条里跡①1トレンチ	5
写真5	沖代地区条里跡①2トレンチ	5
写真6	沖代地区条里跡①3トレンチ	5
写真7	沖代地区条里跡②調査前風景	6
写真8	沖代地区条里跡②1トレンチ	6
写真9	沖代地区条里跡②1トレンチ土坑	6
写真10	沖代地区条里跡③4トレンチ	7
写真11	中津城跡調査前	8
写真12	中津城跡石垣検出状況	8
写真13	中津城跡石垣調査状況	8
写真14	原口遺跡トレンチ全景	9
写真15	原口遺跡トレンチ土層状況	9
写真16	中津城下町遺跡2トレンチ東壁土層	10
写真17	是則地区2トレンチ土層状況	10
写真18	長者屋敷官衙遺跡四面廂建物全景	16
写真19	長者屋敷官衙遺跡身舎柱廻り方堆積状況	16
写真20	長者屋敷官衙遺跡雨柱廻り方堆積状況	16
写真21	長者屋敷官衙遺跡雨落ち溝堆積状況	16
写真22	長者屋敷官衙遺跡中世土坑堆積状況	16

第1章 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積約490kmを誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

2. 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡(47)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が発見され注目された。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

古墳時代・古代 亀山古墳(58)が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀前半には山国川に面する勘助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(49)や定留遺跡(51)でまとまって発見されている。古代には7世紀末に百済系の相原廃寺(5)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衛正倉に推定される長者屋敷官衛遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡(37)、踊ヶ追窯跡(38)、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡(6)がある。

中世 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中津城跡 | 13. 上ノ原平原遺跡 | 25. 福島遺跡 | 37. 草場室跡 | 49. 諸田遺跡 |
| 2. 中津城下町遺跡 | 14. 大池南遺跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 睡ヶ迫室跡 | 50. 定留貝塚 |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡 | 27. 前田遺跡 | 39. ホヤ池室跡 | 51. 定留遺跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知遺跡 | 28. 森山遺跡 | 40. 大谷室跡 | 52. 天貝川遺跡 |
| 5. 相原廃寺 | 17. 旗遺跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡 | 53. 相間貝塚 |
| 6. 三口遺跡 | 18. 黒水遺跡 | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大迫遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡 | 19. 法垣遺跡 | 31. 畑中遺跡 | 43. 中須遺跡 | 55. 梶間遺跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡 | 44. 若加遺跡 | 56. 全徳遺跡 |
| 9. 坂手隈横穴墓群 | 21. ポウガキ遺跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 十前垣遺跡 | 57. ガラヌノ遺跡 |
| 10. 弊旗邸古墳 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 野田遺跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原遺跡 | 35. 才木遺跡 | 47. 上畑成遺跡 | 59. 石堂池遺跡 |
| 12. 勘助野地遺跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山室跡群 | 48. 諸田南遺跡 | 60. 舞手川流域遺跡 |

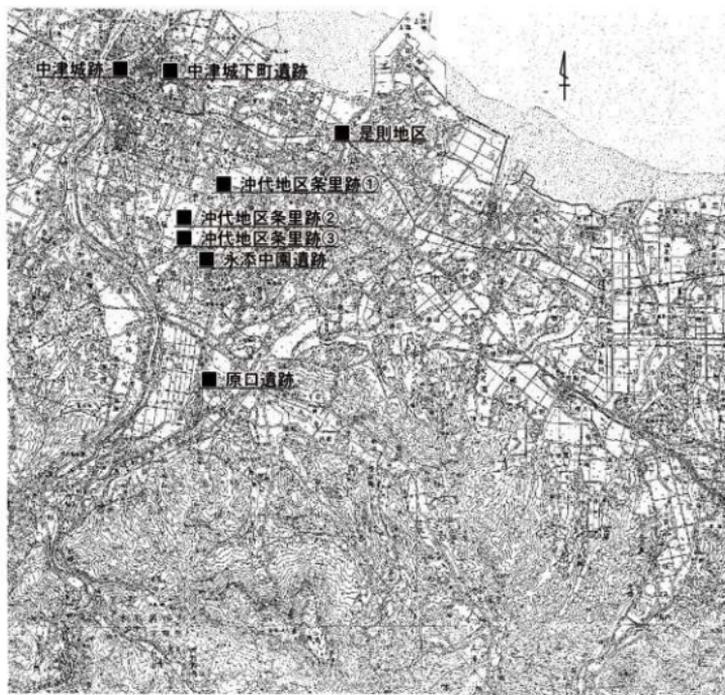
第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第2章 市内遺跡試掘確認調査

1. 今年度の調査概要

令和5年1月末時点の市内における埋蔵文化財包蔵の照会件数は949件を数える。前年同月より約100件減少している。文化財保護法第93条・第94条第1項の届出・通知は158件提出されており、これは前年度と同数である。93条の届出がなされた遺跡は沖代地区条里跡が最も多く60件。次いで中津城下町遺跡18件である。沖代地区条里跡の開発が進んでおり、工事内容は個人住宅や集合住宅の建設が大半を占める。また、三光地区の宅地造成工事件数は増加傾向にあり、郊外へも宅地開発の目が向けられていることを示している。

以下、補助を受け調査した8地点について報告する。



第2図 試掘確認調査位置図 (S=1/100,000)

(1) 永添中園遺跡

令和4年3月15日、中津市大字永添字外屋敷1595番1で集合住宅2棟の建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。そこで、令和4年4月15日、集合住宅建設予定地の内、A棟、B棟が建つ部分にそれぞれ2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無確認を行った。

A棟部分では、遺構・遺物とも確認されなかった。B棟部分では、青磁や白磁片などの中世遺物が攪乱土中で確認されたものの、約1.8m掘り下げを行ってもコンクリート片が混ざるなど地山が確認できず、近年に大規模に地下げをしたことがわかった。そのため遺構は検出できなかった。



第3図 永添中園遺跡調査区位置図



写真1 永添中園遺跡調査前状況



写真2 永添中園遺跡A棟部分トレンチ



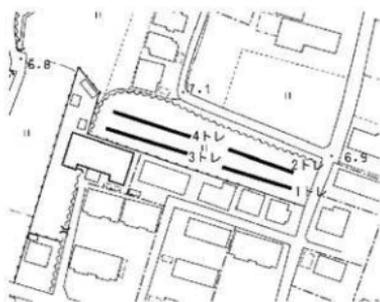
写真3 永添中園遺跡B棟部分トレンチ

(2) 沖代地区条里跡

①宮夫字九ノ坪282番1、283番1

令和4年2月9日、中津市大字宮夫字九ノ坪282番1、283番1で集合住宅2棟の建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。そこで、令和4年4月18日、集合住宅建設予定地の内、A棟、B棟が建つ部分にそれぞれ2本のトレンチを設定し、重機による掘り下げを行い、遺構・遺物の有無確認を行った。

A棟部分(1トレ、2トレ)では遺物は確認されなかったが、一部で水田遺構が検出された。B棟部分(3トレ、4トレ)ではほぼ全体で水田遺構が検出され、それに伴う遺物も確認された。遺物は中世の瓦器や土師質土器と考えられるもので、検出された水田層は中世のものと考えられた。これらのことから、令和4年5月16日から6月9日の間、委託契約を締結し本調査を実施した。



第4図 沖代地区条里跡①調査区位置図



写真4 沖代地区条里跡①1トレンチ
(遺構は検出されなかった)



写真5 沖代地区条里跡①2トレンチ
(手前で溝が確認できる)



写真6 沖代地区条里跡①3トレンチ
(水田層の堆積)

②中津市沖代町2-206-1、206-2、207、212-1

令和4年3月25日、中津市沖代町2-206-1、206-2、207、212-1で宅地造成を行う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。令和4年5月6日、造成予定地に5本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。道路予定地に1・2トレンチを設定し、1トレンチでは径1m、深さ30cmの土坑を1基検出したが、遺物が出土せず時期は不明。また、トレンチ掘削中、遺構検出面直上から中世後半の瓦質土器小片を散見した。2トレンチでは溝状遺構を検出したが、遺構内よりビニール袋の一部が出土したことから近代の溝と考えられる。宅地分譲地の3～5トレンチでは時期不明の幅の狭い溝状遺構が検出された。各遺構について時期が明確ではないこと、調査区全体の遺構密度が低いことから工事着工可とした。



第5図 沖代地区条里跡②調査区位置図



写真7 沖代地区条里跡②調査前風景（北東から）



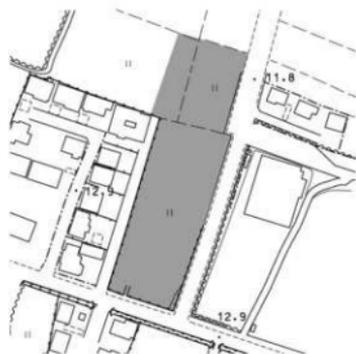
写真8 沖代地区条里跡②1トレンチ



写真9 沖代地区条里跡②1トレンチ土坑

③中津市大字永添387-1外

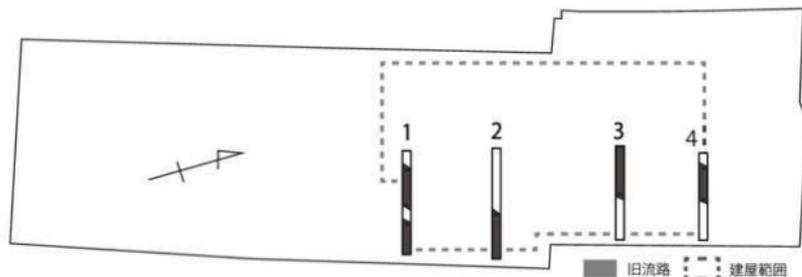
令和4年8月24日、店舗建設の文化財保護法第93条第1項の届出を受け、大分県教育委員会教育長より令和4年9月1日付教委文第1845号で発掘調査の通知があった。これを受けて令和4年10月21、24日に中津市教育委員会にて確認調査を行った。調査対象地の現況は水田である。敷地北側の店舗建設予定地に4本のトレンチを設定して調査を行った。結果、現代の水田層の下に2～3枚の水田層を確認した。さらにその下部に自然流路の堆積を確認した。流路は粗砂～シルトの堆積であった。最上層は褐灰色の粘土で、分解されていない植物を多く含み、滞水状態であったと考えられる。遺物が出土していないため、各層の時期は判然としないが、近隣の調査成果から、旧流路の堆積が水田として利用されたのは、中世以降であると考えられる。調査面積は144㎡である。



第6図 沖代地区条里跡③調査区位置図



写真10 沖代地区条里跡③4トレンチ



第7図 沖代地区条里跡③トレンチ配置図 (縮尺任意)

(3) 中津城跡

令和4年4月25日、中津市字三ノ丁1300番4にて個人住宅建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。令和4年5月19日、建物建設予定地に2箇所トレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。深さ40cm下位にて延長6.1m、幅1mの石垣列を確認した。石材は9個、石の長軸は50～100cm、石の種類は安山岩である。西門南側に存在した石垣の最下段の可能性があり、別トレンチでは現水路の石垣（中津城旧石垣）の裏栗石層の可能性もある川原石がまるとまって見付かった。

開発者と協議を行った結果、石垣は保存されることとなったが、周辺については地盤改良を行う計画であったため、令和4年6月1日から6月29日の間、本調査を実施した。



第8図 中津城跡調査区位置図



写真11 中津城跡調査前（南から）



写真12 中津城跡石垣検出状況



写真13 中津城跡石垣調査状況

(4) 原口遺跡

令和4年10月7日、中津市三光原口761-1、762-1における宅地造成の文化財保護法第93条第1項の届出を受け、大分県教育委員会教育長より令和4年10月14日付教委文第2357号で発掘調査の通知があった。これを受けて令和4年10月21日に中津市教育委員会で発掘調査を行った。今回の宅地造成では分譲地の北側に約100mの位置指定道路を敷設する計画であったため、位置指定道路を確認調査の対象として、道路予定地の中央に幅2m長さ90mのトレンチを設定して調査を実施した。

調査の結果、トレンチの西側では①暗褐色土②黒色土③黄褐色土(地山)の堆積を確認し、②層を埋土とする溝状遺構を検出した。地山は東に向かって緩やかに高くなり、②層は希薄となる。東側では樹木伐根の跡と考えられる締まりの弱い掘り込みを多数確認した。よって遺構が確認された範囲を本調査対象とすることとし、調査は令和4年10月27日から11月4日に行った。



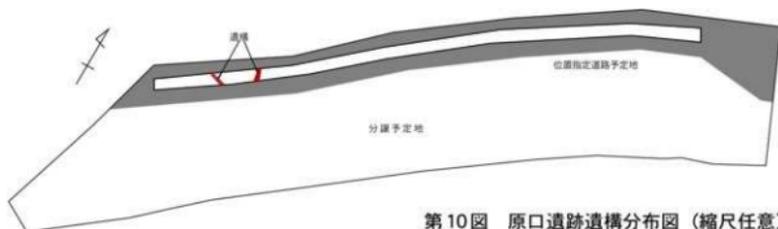
第9図 原口遺跡調査区位置図



写真14 原口遺跡トレンチ全景



写真15 原口遺跡トレンチ堆積状況



第10図 原口遺跡遺構分布図(縮尺任意)

(5) 中津城下町遺跡

令和4年10月21日、中津市字北船堀665-1外における北部小学校校舎増築の文化財保護法第94条第1項の通知がなされた。令和4年12月26日、調査区に2本のトレンチを設定し遺構・遺物の有無確認を行った。地表から60cm下位は近代の盛土、その下30～40cmは暗灰褐色砂層、その下は有機質の腐敗臭を放つ灰色シルト層であった。シルト層から遺構・遺物は確認されていない。上層の暗灰褐色砂層からは型紙刷りを主体とする近代陶磁器がビニール袋1袋分出土した。

近世末の城下絵図によると、現地は「田」の標記があり、シルト層はこの水田に由来する可能性がある。その田を明治時代に暗灰褐色砂層で埋めたものと考えられる。



第11図 中津城下町遺跡調査区位置図

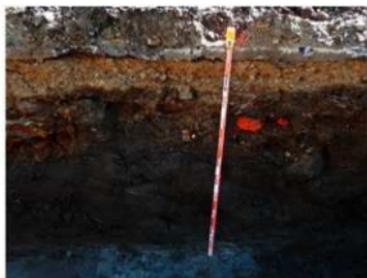


写真16 中津城下町遺跡2トレンチ東壁土層

(6) 是則地区 (周知遺跡外)

令和4年9月16日、中津市大字是則333-4における倉庫・工場・住宅を用途とする開発行為許可申請の事前協議を社会教育課と開発者との間で行った。協議の結果、中津市教育委員会で試掘調査を行うこととなり、令和4年10月17日に建屋建設予定地について試掘調査を行った。予定地は舞手川の右岸に位置し、調査地東の段丘上には弥生時代の舞手橋東段上遺跡が所在する。舞手川右岸は水田となっているが、調査地は川から一段高い土地となっているため自然堤防か段丘が残っているものと考え、予定地に2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。結果、旧地形の高まりと考えていたのは1.5mの盛土で、直下で青灰色～灰白色のシルト・粗砂層を確認した。舞手川の旧流路の堆積と考えられる。遺構・遺物は確認していない。調査面積は11㎡である。



第12図 是則地区調査区位置図



写真17 是則地区2トレンチ土層状況 (東から)

第3章 史跡長者屋敷官衙遺跡周辺確認調査（八並城跡）

史跡長者屋敷官衙遺跡の範囲確認調査は、史跡指定地内の確認調査と並行して行ってきたが、平成30年度からは史跡指定地の北東にあたる畑地、宅地を対象に調査を実施している。これまで2筆の畑地において官衙関連遺構を確認している。（表1）

令和4年度は、長者屋敷官衙遺跡周辺調査対象地としていた大字永添2447、2448、2451番地において範囲確認調査を行った。（第13図）

表1 長者屋敷官衙遺跡調査一覧

次	年度	面積 (㎡)	主な遺構	調査区
1	平成7年度	8,000	SB-1～11、区画施設（溝状・柵状）	1区
2	平成8年度	5,000	南限の溝	2区
3	平成12年度	3,300	不整形大型土坑	3区
4	平成19年度	500	SB-5の続き、SB-12	4区
5	平成20年度	350	SB-13（礎石建物）・14、北限の溝、東限の溝	5・6区
6	平成21年度	1,280	北限の溝の続き	7区
7	平成22年度	85.5	中世遺構	8・9区
8	平成23年度	464	古代建物2棟	10区
9	平成24年度	1,600	古墳時代中期竪穴建物2軒	11・12区
10	平成25年度	400	SB-15・16・17・18、区画施設（溝状）	13区
			土坑、溝（円林寺墓地）、南限の溝の続き	14区・15区
11	平成26年度	230	中世遺構	16区
12	平成27年度	450	SB-5、SD-34、SB-13南溝、SA-27の再確認調査	申請地①～④
13	平成28年度	50	SA-27の再確認調査	17区
14	平成29年度	50	SA-27の南側再調査	17区
15	平成30年度	144	指定地外周辺確認調査	18区
			掘立柱建物1棟、溝状遺構、柱列	
16	平成31・令和2年度	350	指定地外周辺確認調査	19区
			掘立柱建物7棟、溝状遺構、柱列（区画施設）	
17	令和3年度	225	指定地外周辺確認調査	20区
18	令和4年度	600	指定地外周辺確認調査	21・22区
			四面廂建物1棟、区画施設（溝状遺構）、八並城堀、中世土坑	

2451、2447、2448番地の調査（第14図）

2451番地調査区（以下21区）は南北37m・東西13mの調査区である。当初予定では21区のみを調査する予定であったが、検出遺構が西側に延びることが分かり、西側に隣接する2447・2448番地の地権者の同意が得られたため2447・2448番地に4本のトレンチを設定して延長を確認した。（22区）

21区の基本層序は、Ⅰ層：褐色細砂（現代の耕作土）、Ⅱ層：明褐色細砂に白色砂礫・炭化物・焼土を含みかたく締まる（近世・中世の包含層）、Ⅲ層：暗褐色極細砂に炭化物を含む（古代包含層）、Ⅳ層：黒色極細砂、Ⅴ層：黄灰色～黄褐色シルト（地山）である。遺構検出はⅣ層上面から行い、土層観察ベルトを残してⅤ層上面まで掘り下げて検出した。21区は調査区の3分の1ほどの面積が現代の掘削によって検出面から深く掘られている状況であったが、調査の結果、四面廂建物1棟、雨落ち溝新田2条、区画溝とみられる溝状遺構1条、古代土坑、ピット、中世土坑を確認した。22区の標高は東から西に向かってなだらかに低くなる。基本層序ではⅢ、Ⅳ層は大部分削平されている。四面廂建物の東廂、雨落ち溝の東辺、ピット、八並城堀を確認した。

四面廂建物

調査区の北側で確認した南北棟建物で、桁行9間梁行5間の四面廂建物である。北から2°東へ傾く。建物総長は桁行21m梁行11mで面積231㎡を測る。身舎は桁行総長17m梁行6.8mで、桁行8尺梁行7尺半で設計されたと考えられる。北廂と西廂は当初の調査区外に拡張トレンチを入れて確認した。北廂2基、東廂4基の柱掘り方を確認している。隅柱は北東隅のみ確認していない。廂は身舎と柱筋をそろえ、身舎からの柱間は7尺であるが南西隅の隅柱は桁方向に6尺と短く配置されている。建物は建て替えがない。

身舎の柱掘り方の平面形は方形で一辺80cmの規模のものの一辺1mの円形のものがある。前者の掘り方埋土はⅣ層由来の黒色極細砂と地山ブロックの互層堆積を為す。後者では黒色～黒褐色極細砂に1～2cmの地山ブロックをまんべんなく含む堆積である。柱は明瞭に抜き取られたと判断できるものと原位置を保っているものがある。廂柱掘り方の平面形は隅丸方形で一辺60cmほどの規模である。堆積状況は、Ⅳ層由来の黒色極細砂と地山ブロックの互層堆積である。身舎側柱の柱抜き取り穴から8世紀代の高台坪の破片が出土している。

身舎柱掘り方と廂柱掘り方を一部発掘して深さと堆積状況を確認した結果、身舎柱掘り方は検出面からの深さ80cm、廂柱掘り方は40cmであった。（写真2、3）

雨落ち溝

四面廂建物の外周に雨落ち溝と考えられる新田2条の溝状遺構を確認した。旧雨落ち溝は21区で西辺と南辺を確認している。溝の幅は80cmで検出面からの深さは15cm程度である。廂から溝の中心線までは1.8mの距離がある。深さと堆積状況を確認するために一部を掘り下げた。深さは検出面から20cm、底面は凹凸が少なく外側は緩やかに立ち上がり、建物側の立ち上がりは急である。埋土はⅣ層由来の黒色極細砂で底面直上に地山ブロックが薄く堆積する。砂は堆積していない。新雨落ち溝は21区で北・西・南辺の一部、22区の2トレンチで東辺の一部を確認している。溝の幅は1m～60cmで、旧雨落ち溝よりも80～50cm程内側に掘られている。旧溝よりも浅く掘られている。廂から溝の中心線までの距離は1mで堆積はⅢ層由来の堆積である。さらに新雨落ち溝を掘り返すように不整形土坑が数基重複している。不整形土坑の埋土は新雨落ち溝と同様にⅢ層に由来するが黄色粗砂をブロック状に含む。

溝状遺構 (S-12)

21区南端で10m、22区4トレンチで8mを検出している。21区間は東西方向の溝状遺構で正方形であるが、4トレンチで緩やかに南に曲がってトレンチ外へ延びる。IV層由来の堆積とIII層由来の堆積がほぼ同位置で切り合う新旧2条の溝である。

焼土坑・鍛冶関連遺構 (S-3・8・9)

21区で確認した土坑である。S-3は一辺90cmの隅丸方形の土坑で、壁面が焼熱している。旧雨落ち溝と不整形土坑を切って構築されている。堆積は暗褐色細砂である。S-8は長軸1.4m・短軸1mの長方形を呈する土坑でふいごの羽口、焼土、炭が出土している。埋土は暗褐色細砂である。S-9は長軸1.4m・短軸65cmの長方形を呈する土坑である。焼土、炭が出土している。焼土坑・鍛冶関連遺構は、四面廂建物・雨落ち溝との切り合いと位置関係から、建物が廃絶した後に構築された遺構と判断される。

八並城堀

22区1・3・4トレンチで確認している。北から14°東へ傾く。検出面では幅が1.4mと狭く、22区の削平が著しいことを伺わせる。埋土はI層からV層がブロック状に混じる締まりのない堆積で、近代まで開口していた可能性が高い。瓦質土器が出土している。

中世竪穴状遺構 (S-1)

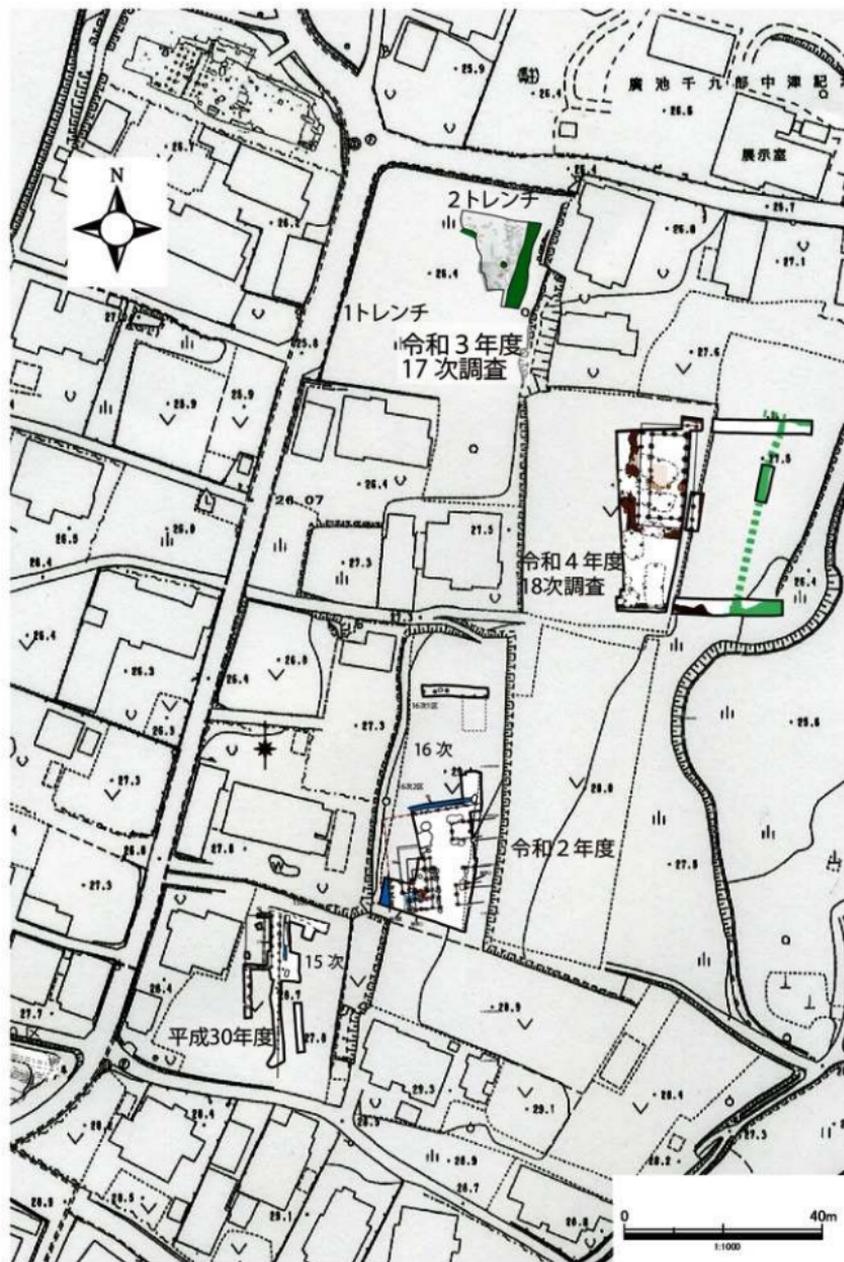
21区で検出した大型の竪穴状遺構。現代の攪乱に切られ、四面廂建物の身舎柱を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸5m・短軸4mである。壁は斜めに立ち上がり底面は平らである。上層埋土はII層由来の堆積を主とし暗褐色極細砂と互層に堆積する。堅くしまる堆積である。下層は地山ブロックの堆積でしまりは弱い。

まとめ

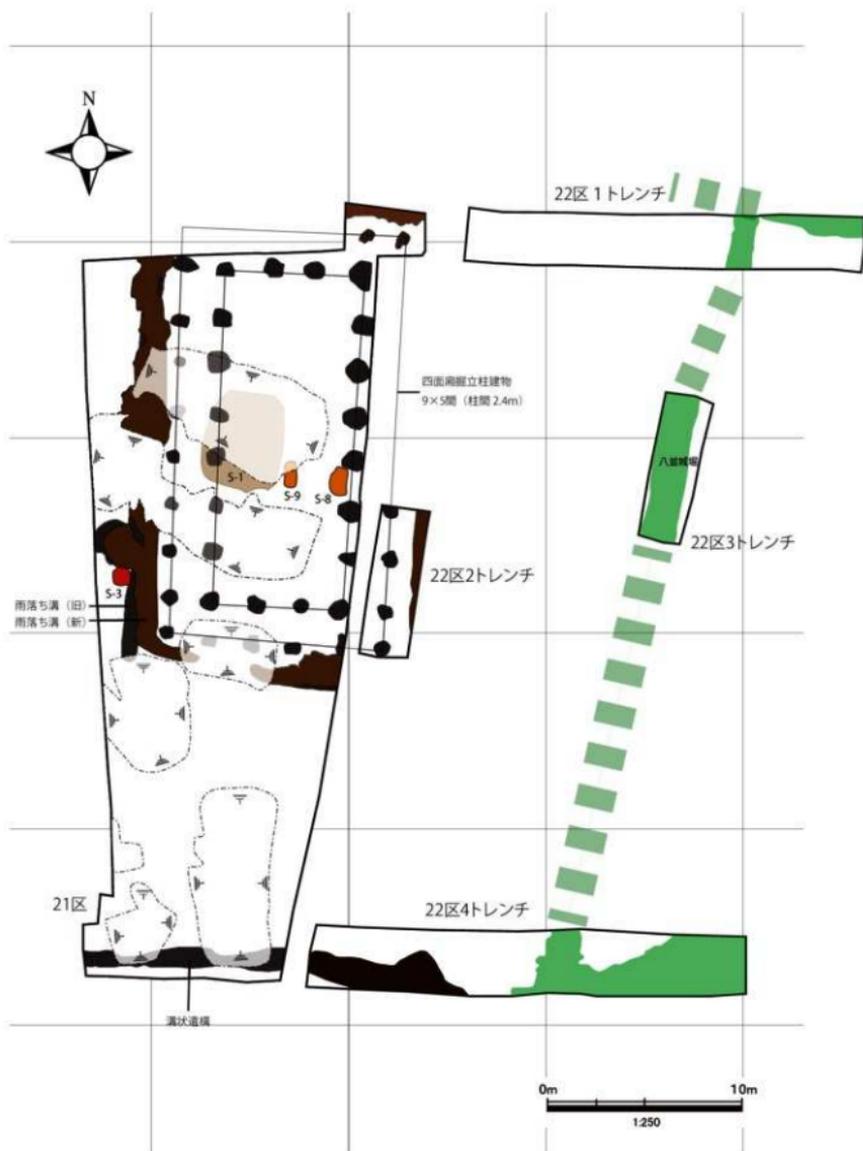
今回調査を行った21・22区の南側の畑(18・19区)ではこれまで8棟の側柱建物を確認している。建物の特徴として、①主軸方向が真北を指向する。②柱間が等間に配置され、柱間寸法が7尺以上で設計されている。③柱掘り方が方形を基調とする。④溝や柱列で区画される。といった特徴がみられ、官衙関連遺構と考えられるものである。21・22区では明確な④の区画は検出されていないが、四面廂建物は①～③の特徴を備え、規模も9×5間と大型のものである。下毛郡衙を構成する主要な施設の一つであった可能性が高い。現状ではこの建物が具体的にどのような役割を担っていたのか判断するのは難しい。周辺の確認調査をすすめ、郡衙の全体像を解明していく中で検討していきたい。

(参考文献)

- 中津市教育委員会『長者屋敷遺跡』中津市文化財調査報告書第26集 2001
- 中津市教育委員会『長者屋敷官衙遺跡4～11次調査』中津市文化財調査報告書第73集 2015
- 中津市教育委員会『市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(3) 長者屋敷官衙遺跡 市内遺跡発掘調査概報9』中津市文化財調査報告第75集 2016
- 中津市教育委員会『市内遺跡試掘確認調査 相原廃寺 長者屋敷官衙遺跡 中近世城館確認調査(4)』『市内遺跡発掘調査概報10』中津市文化財調査報告第81集 2017
- 中津市教育委員会『市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(6) 長者屋敷官衙遺跡』『市内遺跡発掘調査概報12』中津市文化財調査報告第92集 2019



第13図 長者屋敷官衙遺跡周辺確認調査区位置図（平成30～令和4年度、15～18次区配置図 1:1000）



第14図 令和4年度18次調査区 (1/250)



写真18 長者屋敷官衙遺跡四面廂建物全景（左が北）



写真19 長者屋敷官衙遺跡身舎柱掘り方堆積状況（南西から）



写真20 長者屋敷官衙遺跡廊柱掘り方堆積状況（南西から）



写真21 長者屋敷官衙遺跡雨落ち溝堆積状況（南から）



写真22 長者屋敷官衙遺跡中世土坑堆積状況（西から）

報告書抄録

書名	市内遺跡試掘確認調査								
副書名	市内遺跡発掘調査概報								
巻次	16								
シリーズ名	中津市文化財調査報告								
シリーズ番号	第116集								
編集者名	丸山 利枝 小柳 和宏 浦井 直幸 (編)								
編集機関	中津市教育委員会								
所在地	〒871-0058 大分県中津市豊田町9番地10 TEL 0979-22-4942								
発行年月日	2023年3月31日								
所収遺跡名	所在地	調コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積(m ²)	調査原因	
緊急試掘確認調査	永添中園遺跡	大分県中津市大字永添字外屋敷1595番1	44203	203045	33°34'18"	131°12'7"	20220415	50	集合住宅建設
	神代地区条里跡	大分県中津市大字宮大字九ノ坪282番1,283番1	44203	203007	33°35'7"	131°12'20"	20220418	150	集合住宅建設
		大分県中津市神代町2-206-1, 206-2, 207, 212-1	44203	203007	33°34'54"	131°11'54"	20220506	60	宅地造成
	中津城跡	大分県中津市大字永添387-1外	44203	203007	33°34'25"	131°11'51"	20221021 20221024	144	店舗建設
		大分県中津市字三ノ丁1300番4	44201	203001	33°36'18"	131°10'56"	20220519	25	個人住宅建設
	原口遺跡	大分県中津市三光原口761-1, 762-1	44203	203157	33°32'59"	131°12'6"	20221021	115	宅地造成
	中津城下町遺跡	大分県中津市字北福地665-1外	44202	203002	33°36'18"	131°11'33"	20221226	25	校舎増築
	是則地区	大分県中津市大字是則333-4	44203	—	33°35'39"	131°13'59"	20221017	11	工場増設
緊急試掘確認調査内 長者屋敷官衙遺跡周辺 (八並城跡)	大分県中津市大字永添2407-1	44203	203046	33°34'8"	131°12'27"	20221111 ～ 20230331	800	範囲内容確認調査	
緊急試掘確認調査	所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
	永添中園遺跡	包蔵地	弥生・古墳	なし	青磁・白磁	なし			
	神代地区条里跡	条里跡	弥生・古墳・古代・中世・近世	水田層	瓦器	確認調査後、本調査実施			
		条里跡	弥生・古墳・古代・中世・近世	土坑・溝	瓦質土器小片	なし			
		条里跡	弥生・古墳・古代・中世・近世	水田層	なし	なし			
	中津城跡	城跡	近世	石垣	瓦	確認調査後、本調査実施			
	原口遺跡	包蔵地	弥生・古墳	溝状遺構	なし	なし			
	中津城下町遺跡	城下町	近世	なし	近代	なし			
周知遺跡外	—	—	なし	なし	なし				
緊急試掘確認調査内 長者屋敷官衙遺跡周辺 (八並城跡)	城館跡	中世	官衙関連建物 八並城堀	須恵器・土師器	埋土保存				
要約	神代地区条里跡では中世の水田層や時期不明の土坑や溝状遺構を確認した。中津城跡では西門の石垣を検出した。原口遺跡では溝状遺構を確認した。八並城跡では土跡周辺確認調査を行い、官衙関連遺構と考えられる四面廂建物1棟、中世八並城の堀跡を確認した。								

市内遺跡試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報16
中津市文化財調査報告 第116集

2023年3月31日

発行 中津市教育委員会
印刷 藤川原田印刷社